

平成23年3月15日

品川区教育委員会
教育長 若月秀夫 様

品川区立浅間台小学校
校区外部評価委員会委員長

成田 國英 (私印)

校区外部評価にかかわる報告書

平成22年度の教育活動を評価した結果について、下記のとおり報告します。

記

評価項目1 「基礎学力の定着に関して」

1 「基礎学力の定着に関して」

- 全体的に落ち着いて静かな中で授業が進められていた。集中できていない子も把握し指導していた。
- 教員の温度差はあるが授業の最後に振り返りの活動を入れているなど、全体として頑張っている。
- 保育園との交流活動の際、子どもたちに分かり易く指示をしていた。
- 担任の教室での授業は、時間を守って授業を始めているが、専科の教室に行くには休み時間が5分しか無いので、その過ごし方を徹底するなど工夫をして欲しい。

評価項目2 「社会性・人間性の育成に関して」

2 「社会性・人間性の育成に関して」

- 発達段階によっても異なるが、気持ちの良い挨拶ができていた。周りの大人がきつい言葉遣いをする地域性もあり、子どもたちの言葉遣いも、きつい場面が見られるが、多くの子どもは、何かを尋ねても丁寧な言葉（～です。～ます。）で返事ができている
- いじめにはみられない。
- 市民科については地域や家庭に発信している。市民科と接続させて「食農教育」を進めている。
- 卒園児が自信を持って過ごしている(保育園に遊びに来たときの話を聞くと)様子から、子ども同士の関係がとても良い状況と思われる。

評価項目3 「小中一貫教育の推進に関して」

3 「小中一貫教育の推進に関して」

- 校長が、熱心に指導しているのは良く分かるが、教員に十分伝わっているかどうかは確認できなかった。そのため、細目については評価ができなかった。
- 東海中グループの連携作品展など事前にプリントを配布し、終了後にはホームページに掲載して理解に努めている。

評価項目4 「保護者・地域との連携に関して」

4 「保護者・地域との連携に関して」

- 地域に向けてさまざまな取り組みや誘いを行い、地域の力をフルに活用している。
- 地域の人も学校教育に関わることで生き生きと活動し、喜びを感じている。
- 地域も一緒に体験できるので学校の取り組み内容が良く伝わっている。

評価項目5「環境整備・美化に関して」

5「環境整備・美化に関して」

- 校内の廊下・トイレ・階段などの清掃はよく行き届いており、適切な生活環境が整っている。
- 1年間の取り組みの様子が、写真を多く利用して開示されよく分かる。
- 児童の作品は一つ一つ額に納められて大切に掲示され、校舎内は浅間台ギャラリーとして美術館のような情操を養う環境を備えている。
- 保育園の子どもたちも安心して学校を利用できる環境整備ができています。

評価項目6 学校独自の特色ある教育活動に関して

【教員の指導力・家庭の教育力の向上】

- CRTの結果から、教員の指導力は向上し、研究に取り組んでいる姿から教員の意欲は向上していると感じる。
- 米作りや様々な野菜の栽培から実際の調理までの「食農教育」を学校教育の中に取り入れることで、子どもたちの「食」への意識が向上していると感じる。
- 多くの家庭は「食農教育」を通じて「食」に対する意識は向上していると感じる。

【教員同士の理解】

- 学年団や3委員会（学力向上・生活指導・教育課題）など組織が効果的に運営されており、児童が抱える課題に対して教員は協力的な指導体制ができています。
- 小規模校の特性を生かした「全教員が児童一人一人の担任」という意識を全教員がもっており、学級担任だけでなく専科教員・情緒学級の教員も学年会・保護者会・個人面談に参加することで、きめの細かい児童理解ができています。

【児童と地域のかかわり】

- 6年生は赤ちゃん交流事業を通して、地域の母子と交流し、親への感謝の気持ちと命の大切さを学んでいる。

【小中一貫教育の推進】

- 小中一貫東海グループでは、教科ごとの研究体制が組織され、児童・生徒の人間性・社会性・学力の向上を図る取り組みをしていることは評価できる。

【校長会指定の研究を生かして食に関する指導の充実を図る】

- 「食農教育」では、「栽培・収穫・調理・会食」の基礎・基本を専門家から学ぶ研修や授業実践を通して、教員は「栽培技術」「食物管理」「調理」「会食」の指導の仕方を学んだ。また、「給食指導」「食育の指導」を進めながら児童の「食の自立」と「五感の育成」を、保護者の「食生活の改善」、地域の「食農教育」への関心を高めている。

【特別支援教育】

- 特別支援の必要な通級学級が併設され発達障害児を通常級と支援級の教員同士が共通理解をもって指導に当たっている。学校全体での特別支援教育の認識が深まっている。
- 学習支援委員会の実施や児童理解を深めるための教育相談研修会の開催、外部機関との連携を通して、全教員が特別支援教育に対する理解を深め、配慮や支援を必要とする児童への対応をきめ細かく行っている。

総合評価

【総合評価】

- 今年度の校長会指定の研究発表会では、教員一人一人が意欲的に研究に取り組み、学校経営方針に沿った組織的で統一した教育活動を行うことができていますので、非常に安心感、信頼感がもてる。
- 学校は、保護者や地域へ経営方針を分かりやすく説明するとともに、アンケートなどを活用して、意見を求め学校経営に生かしている。今年度は、保護者会の参加率も60%以上あり、保護者・地域は学校の経営方針を理解し、教育活動のボランティアとしてよく参加、協力している。信頼関係が強く、地域に根ざした学校でありとても好ましい。
- 児童は礼儀正しく落ち着いていて、同学年・異学年とも仲良く、授業中は集中して学習している。学校での生活環境、学習環境が整っている。

[本年度校区外部評価委員]

○校区外部評価委員長 成田 國英

○校区外部評価委員 ・市川貴弘 ・金久保寛子 ・池田幸子 ・工藤稔 ・細越正道・野尻茂子